

被爆80年語り継ぐ



記者会見で壇上に並ぶ(左から)上智学院のサリ理事長、日本被団協の児玉三智子事務局次長、田中熙巳代表委員、ノルウェー・ノーベル委員会のフリードネス委員長、トーヤ副委員長、ノーベル研究所のハルプビーケン所長=7月27日、東京都千代田区

被爆者の声が世界動かす

広島、長崎への原爆投下から今年で80年。1945年8月6日に広島、9日に長崎の上空で爆裂(さくれつ)した原爆は、二つの都市を破壊し尽くしました。

生き残った被爆者は放射線の影響をはじめさまざまな苦難とたたかいながら、「私たちの体験をとおして人類の危機を救おう」(56年の日本原水爆被害者団体協議会=日本被団協=結成宣言)と立ち上がりました。「核兵器と人類

は共存できない」。核戦争の恐怖が世界を覆うもと、訴えはいま世界を動かしています。

「記憶、痛み、苦しみを変革のための力、平和に向けての力に変えた」。ノルウェー・ノーベル委員会のフリードネス委員長は7月27日、訪問先の東京での記者会見で被爆者の活動をこう称賛。「世界は被爆者の声を聞き、学ぶべきだ」「80年を機に改めて言いたい。核兵器はなくそう

記憶は平和の力



石田久美さんに話しかける父・山田繁人さん。「あの日、1日違えば自分が上に行つた(死んだ)」と話し指を天に向かいました=長崎市

長崎で



広島で

平和記念公園で原爆ドームの前に並ぶ(左から)河野キヨ美さん、川又栄子さん、近藤康子さん=広島市

と語りました。同委員会は昨年日本被団協にノーベル平和賞を授与しました。

被爆者を先頭とする市民運動と国際社会のうねりは核兵器禁止条約に結実。条約の締約国は73、署名国も国連加盟国の中半数に迫る94にも。国際的な規範としての存在感を高めています。

日本被団協と原水爆禁止日本協議会(日本原水協)、原水爆禁止日本国民会議(原水禁)は同23日に共同アピールを発表。米国の「核の傘」に依存し、禁止条約に背を向ける日本政府の姿勢を批判し、「ヒロシマ・ナガサキの実相を受け継ぎ、広げる国民的なとりくみを」と呼びかけました。

そんな被爆者たちの平均年齢は86歳を超え、証言を引き継ぐ動きが広がっています。広島で伝承活動を続ける川又栄子さん(68)は「被爆者は何十年も心の奥底に残つて忘れないつらさを抱えて生きてこられた。その思いを伝えたい」。長崎で両親の被爆体験を語り継ぐ石田久美さん(62)もいいます。「被爆者は『長崎を最後の被爆地』と言い続けてきた。それを大きな声にして政治を動かす人たちの良心の部分に届けたい」。被爆者の証言を引き継ぐ人たちの姿を追いました。

6面につづく

次号は合併号 8月10・17日号



熊本市長の企業献金疑惑を追う
戸田 恵子さん

32 18



世界おやつ紀行
長友佑都選手38歳
14 再び輝き 9

富士山頂から

地球観測
16
17

ガザ虐殺で大もっけの会社
11
12

トランプ関税
一方的な脅迫
13
14

コメ農家、自動車下請けの怒り
4
5

大西満王さん
15
16

差別社会ノーノー
12氏アピール
2
30
31

小林節さんが読み解く
参政党「新憲法」
3

温又柔さん
自分のよさを認めよう
3



やなせたかしさんに人生学ぶ

■赤旗 <https://www.jcp.or.jp/akahata>

■電子版 <https://www.akahata-digital.press>

■メール hensyukoe@jcp.or.jp

■ファックス03(3350)9531